



東(に)風(ち)



HPへの
QRコード

旭川市立神居東中学校
令和6年度学校だより

No.6

令和6年10月2日(水)発行

〒070-8014 旭川市神居4条19丁目 Tel:0166-61-8298

「努力の証」 喜唱天結～僕らが頂点に立つ物語～

校長 坂東 裕美

朝夕に涼しさを感じ、秋の深まりを感じさせる季節となりました。木々の葉も色が付き始め、時の流れの早さを感じずにはられません。

さて、9月20日(金)に行いました「神居東中学校第40回学校祭」ですが、生徒の笑顔と感動に包まれ、大成功のうちに終了いたしました。

今、様々な取組や各発表を思い起こしても、胸が熱くなり感動がよみがえります。改めて、生徒の底力とチーム力を感じたひとときでした。保護者、地域の皆様方には、終始、生徒の頑張りに温かい拍手をいただき、大変ありがとうございました。

私は、学校祭とは、「生徒が知恵や創造力を表現し、それを学校内外に発信する最大の場」と考えています。各学年発表では一人ひとりが主役となり、自分の役割や力量を大いに発揮し表現しました。とりわけ合唱コンクールは、これまでの学校生活で培ってきた学級の絆や一体感が合唱を通して見事に表現され、本当に感動しました。これまで自身も合唱に携わったことがありますが、何より中学生の「学級合唱」が大好きです。それは、各学級それぞれにドラマが生まれるからです。

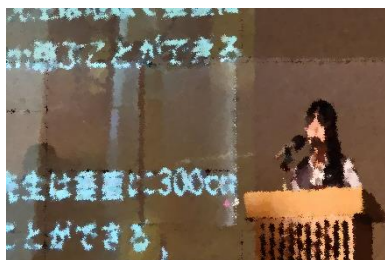
生徒は、一人ひとり声量も声質も違います。一つのことを全員で創り上げるのですから、日々の努力が求められます。時には声が出ない日もあるでしょう。練習がうまくいかなくて級友とぶつかることもあると思います。毎日、切磋琢磨しながら仲間と創り上げていく、その苦しく地道な過程があるからこそ感動的な合唱につながるのです。

閉会式後、教室で涙を流しながら歌っている学級がありました。本気で、真剣に取り組んだからこそ悔しい気持ちが芽生えるのだと思います。ひたむきに練習してきた姿を誰もが見ています。涙は「努力の証」なのです。こんな心に響く素敵な合唱はないと思います。

一人ひとりが成功に向け真剣に取り組んだこと、初めてのことに挑戦し全員で心を合わせて最後まで努力したこと、みんなの頑張りを受け止める心など、取組の全てが「挑戦・協働・感動」そのものであったと思います。何より、全ての発表が終わった後の一人一人の清々しく達成感いっぱいの表情が忘れられません。

全員で創り上げた学校祭。一人ひとりが主役であり、大切にかけがえのない存在です。学校祭で培った心を礎に、これからも仲間を思いやり、共に創り上げる活動を大切にする、そして努力してきたことを励みに、自信をもち更に挑戦していこうとする意欲につなげてほしいと思います。

大成功に導いてくれた皆さんに心から拍手を贈りたいと思います。たくさんの感動をありがとう！



令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

神居東中3年生、国語・数学全て全国平均を上回る!



4月18日に実施した「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果が発表され、国語、数学ともに全国の平均正答率を上回りました。個人票につきましては、すでに生徒にお渡ししております。

調査結果から、本校の学力や学習状況、課題等を把握することができました。詳細は別紙をご参照ください。この結果を受け、各教科においては、今後も学習指導の改善・充実に取り組んでいきます。

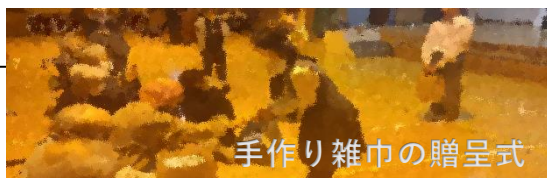
なお、同日に行われた生徒質問紙から明らかになった課題につきましても、別紙を御覧いただき、お子さんと学校生活や家庭での生活の話題にしていいただければ幸いです。

※分析結果は別紙に載せております。

令和6年度学校祭 喜唱天結 ～僕らが頂点に立つ物語～

9月20日に「学校祭」を実施しました。総合的な学習の発表では、1年生が『身近な旭川の施設』を調査し、クイズも交えて紹介しました。2年生は、4つのブースに分かれて、『職場体験』で学んだことをプレゼンテーションしました。3年生は、『挑戦・協働・感動』を合言葉に、この3年間で学んだ成果を発表することができました。どの学年も、趣向を凝らした素晴らしい発表になりました。また、合唱コンクールでは、どのクラスも美しい歌声を響かせました。最優秀賞は3年2組「青葉の歌」 3年1組の「青い鳥」も大変素晴らしく、審査は難航しました。1・2年生の合唱もクラスの団結力を生かした美しく迫力のある歌声でした。

3年生の頑張りは後輩たちの良き見本となります。自分たちも「こうなりたい」という具体的な目標ができたのではないかと思います。先輩が立派な姿を示し、後輩がその姿を見て、それに近づこう、超えようとする。神居東中の良き伝統はしっかりと継承されていきました。



手作り雑巾の贈呈式

手作り雑巾をいただきました!

市内の高齢者介護施設の方から手作り雑巾を寄贈していただきました。雑巾に使用している布は、皆様から集めた古タオルを活用しています。学校祭当日、贈呈式が行われ、いただいた雑巾は、校内美化に活かしていきたいと思います。

後期生徒会役員選挙立会演説会

9月27日(金)に後期生徒会本部役員選挙の立会演説会を実施しました。立候補者と責任者は、堂々と立派な演説を行いました。定数7名に対し、立候補者が7名でしたので、信任投票となり、投票の結果、全員が当選を果たしました。新しいリーダーとして活躍を期待しています。

氏名の掲載は、省略させていただきます。

10月の主な行事

- 1日(月) 常任委員会
- 2日(火) いじめに関する出前授業
実業高校体験入学(2年生)
- 3日(木) 認証式
- 4日(金) 小中音楽発表会
- 6日(日) 吹奏楽部定期演奏会
- 8日(火) 旭川市教育研究大会(臨休)
- 9日(水) 二計測
- 10日(木) 3年生学力テスト(総合B)
- 11日(金) 生徒総会(部活動中止)
- 13日(日) 全道駅伝(新得町)
- 15日(火) 教育相談(担任と生徒)
(15日～23日)
- 24日(木) いじめ撲滅集会
- 25日(金) 給食費等振替
- 25日(金) 中連音楽発表会
- 29日(火) 3年生定期テストⅡ 1日目
進路説明会
- 30日(水) 3年生定期テストⅡ 2日目
- 31日(木) 常任委員会

令和6年度 全国学力・学習状況調査（生徒質問紙編）

本校の注目すべき事項（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した割合）※一部を除く

質問番号	観点	質問事項	全国回答率	全国との差
1	生活習慣	朝食を毎日食べている。	91.2%	↓
2		毎日、同じくらいの時間に寝ている。	80.7%	↑
3		毎日、同じくらいの時間に起きている。	92.5%	↑
6		普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。 ※2時間以上の割合	55.9%	↓
7		携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	72.2%	↑
26		放課後や週末にテレビや動画、ゲーム、SNSをして過ごす割合。	88.6%	↓
9	自己肯定感	自分には良いところがあると思う。	83.3%	↓
10		先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。	90.4%	↑
11		将来の夢や目標を持っていますか。	66.3%	↑
16	安心安全	学校に行くのは楽しいと思う。	83.8%	↑
13		いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	↑
14		困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	67.5%	↑
18		友だち関係に満足していますか。	90.1%	↑
39		学校生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。	86.3%	↑
36	学びを深める環境	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	84.9%	↑
32		1、2年生のときに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	80.9%	↑
21		学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※1日1時間以上の割合	82.7%	↑
22		土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※1日1時間以上の割合	63.0%	↑
27		1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合	64.4%	↑
28-3		1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。	82.4%	↑
28-5		1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	77.7%	↑
33		話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	86.1%	↑

検証分析

↑は全国平均を上回っています。

今回の生徒質問紙調査から生徒は全体的に規範意識が高く、時間やルールを普段から意識して学校生活を送っている学年であると言えます。いじめについては、どんな理由があっても許されないと全員が回答しました。これからも、いじめの未然防止の取組や道徳等の学習を通じて、いじめは犯罪であり、誰もが「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と子供たちが胸を張って言えるよう指導を継続してまいります。

また、困り事や不安な気持ちを抱え、それを伝えられないでいる生徒の割合は低く、先生方との関係についても良好な結果が出ています。これらは、自己肯定感を高める行事の工夫や生徒の実態に即したきめ細やかな指導の表れと考えます。これからも、現状に満足することなく生徒からの意見に耳を傾ける時間を多く確保したり、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開したりすることで、学校が楽しいと思える環境作りに取り組んでいきます。

ICTの活用についても、各項目とも全国平均を超えていますが、6割程度となっています。全ての授業で端末を用いた授業改善を進めるとともに、9月から始まっている端末持ち帰りにつきましても、クラウドを活用する等のメリットを生かしながら、より効果的に学習を進めていけるよう環境を整えていきたいと思えます。

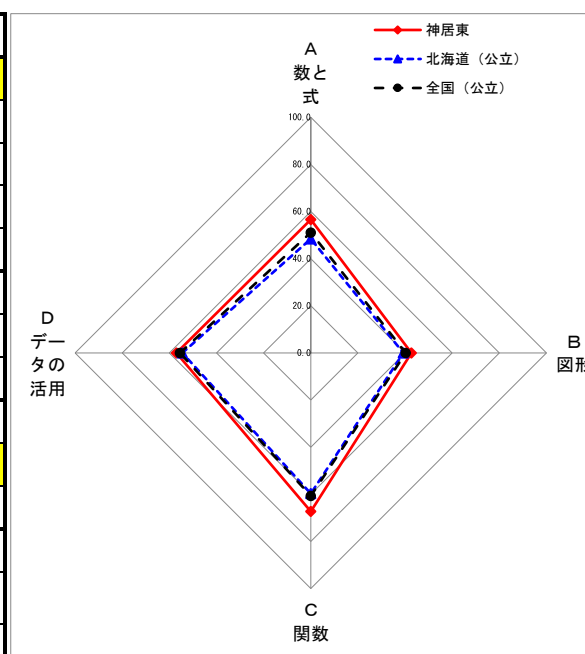
改善点

黄色で示した部分は、全国平均より下回っている項目です。特に質問番号9「自分にはよいところがある」については、昨年に比べ高い水準になってはいるものの、生徒全員が自分の良いところがあると実感をしてはけません。今後も生徒の様子や状況を細やかに見守るとともに、授業や各種取組の中で、互いを認め合える場を設定することで、自己肯定感を高めていけるようにしていきたいと思えます。

自宅でスマートフォンを使用してSNSや動画視聴を行う時間が、全国平均より長いことも分かりました。使用する時間が長くなるほど、学習に向かう時間は減っていく傾向にあります。自宅での時間を有効に使っていくにはどうしたらよいのかを今一度御家庭で話し合い、決まりを守って上手に使用していけるよう御協力をお願いいたします。

令和6年度 全国学力・学習状況調査（数学編）

番号	観点	領域	出題の趣旨	全国正答率	全国との差
1	知	数式	連続する2つの数の表し方	34.8%	↓
2	知	数式	目的に応じた等式変形	52.5%	↑
3	知	図形	回転移動の意味理解	68.3%	↑
4	知	関数	一次関数の式やグラフの読取	65.3%	↑
5	知	データ	簡単な確率の求め方	73.1%	↑
6-1	知	数式	考察対象に応じた加法の計算	90.2%	↑
6-2	思		結論が成り立つための前提の考察と説明	35.9%	↑
6-3	思		統合的・発展的な考えの説明	41.8%	↑
7-1	知	データ	代表値の読取	74.3%	↑
7-2	思		複数のデータの傾向の説明	25.9%	↓
7-3	知		四分位範囲の比較	48.5%	↑
8-1	知	関数	グラフと軸の交点の意味理解	83.4%	↑
8-2	思		事象の数学的解釈と問題解決方法の数学的説明	17.1%	↑
8-3	知		グラフの意味理解	76.9%	↑
9-1	思	図形	ある事柄が成り立つことの証明	25.8%	↑
9-2	知		条件変更による新たな性質の読取	26.7%	↑



数学の全分野の平均正答率をグラフ化したものです。

『↑』は正答率が全国を上回っていることを表しています。

検証分析

1 組織的な取組による基礎・基本の定着

- ①学校全体で、組織的に取り組んでいる家庭学習の働きかけにより、基礎・基本の定着を確かなものになってきています。
- ②チームティーチングや習熟度指導による個に応じた指導やA I ドリルの活用、放課後学習等に取り組んだ結果、全体の学力の底上げが進んできました。

2 教科横断的な指導による資質・能力の向上

- ①授業では、学校全体で生徒の興味・関心を引き出す授業を I C Tを活用する場面を増やしており、数学科では他教科と関連の高い関数を中心に成果が表れてきていることが分かりました。
- ②教科横断的な指導の取組の1つとして、どの教科においても前時の振り返り学習を授業の最初に取り組むことで、学習した内容の定着を図る取組を行っている成果が数学科でも表れています。
- ③今求められている 思考力、判断力、表現力等を身に付ける指導を、数学科でも言語（数学的）活動を通して意識的に行っていることが今回の結果に表れていることが分かりました。

今後の課題と改善策

問題7-2は、図の結果を根拠に解答する問題でした。多くの生徒が一部の数値（代表値）だけに注視してしまったため、問題の全体像を把握できず、誤った説明をしている生徒が多くいました。解答をする際には、一つの見方だけではなく、多面的・多角的な視点から考えを深めていく必要があります。今後は、自分の考えや仲間の考えなど、多用な考えから課題を解決させる学習を充実させていきたいと思います。

具体的には、表やグラフなどの資料をより多く提示し、そこから必要な情報を正確に抜き取り、課題を解決させるための答えやその根拠を自分なりに、そして仲間と協働的な学びを通じて考えていきます。まとめでは、数学的な表現を用いて正確に説明をしていくことができるよう授業を進めていくことで、生徒一人ひとりが、自信を持って課題解決していけるような環境作りを進めていきたいと思います。

令和6年度 全国学力・学習状況調査（国語編）

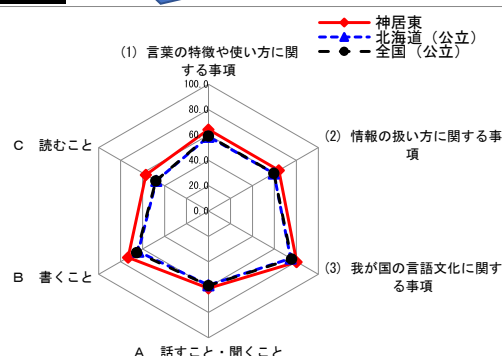
問題1

知識・技能（情報の扱い方に関する事項） 思考力・判断力・表現力等（話す・聞くこと）				
設問	一	二	三	四
全国正答率	63.2%	68.5%	44.0%	44.7%
全国との差	↑	↓	↑	↑

国語の全分野の平均正答率をグラフ化したものです。

矢印「↑」は正答率が全国を上回っていることを表しています。

話の内容を正確に理解した上で、資料を用いて自分の考えを伝えながら話し合いを進め、自分の考えをまとめる問題でした。設問二については、文章中に書かれてる発言の意図をしっかりと捉え、その上で問題の内容を理解し、解答することに課題のあった設問でした。



問題2

知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項） 思考力・判断力・表現力等（読むこと）				
設問	一	二	三	四
全国	36.5%	75.2%	64.5%	42.6%
全国との差	↑	↓	↑	↑

矢印「↓」は正答率が全国を下回っていることを表しています。

説明文と図を結び付けて内容を解釈したり、具体と抽象との関係を捉えたりしながら目的に応じて説明文の内容を要約する問題でした。説明文の構造は捉えているものの、問題1同様、本文の内容を正確に捉え、解答を選択することができない生徒が多かったです。

問題3

知識・技能（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項） 思考力・判断力・表現力等（書くこと）				
設問	一	二	三	四
全国	81.4%	53.8%	68.8%	49.3%
全国との差	↑	↑	↑	↑

伝えたいことを明確にするため、集めた材料を整理したり、文の成分の順序・照応や漢字に注意するとともに、自分の考えが伝わるように表現を工夫して物語の一部分を書く問題でした。書くことに関しては、これまでの学習の成果が発揮されており、高い正答率となりました。

問題4

知識・技能（我が国の言語文化に関する事項）			
設問	一	二	三
全国	54.9%	48.3%	75.6%
全国との差	↑	↑	↑

短歌や行書の表現技法に関する問題でした。短歌の情景を適切にとらえたり、行書の特徴を説明したりするなど、これまでの学習を通じて、基礎・基本の定着が図られていることが分かりました。

今後身に付けたい力

今回の学力テストを通じ、文章を「書く」ことをについては、苦手意識が少なくなってきたことが分かりました。自分の考えや思い、分かったことを記録するなど、全校で共通して取り組んでいる成果といえます。

しかし、筆者や主人公の意図（考え）などを読み取り、それに対する自分の考えや意見を正確に、かつ適切な表現方法を用いて文章にしていくことはまだ苦手と感じている生徒が多いことが分かりました。

推測されることとして、SNSやメッセージアプリの普及により、掲載されている情報をそのままの形で表現してしまうことや、略語や顔文字などの短縮表現が主流となっており、正確で豊かな文章表現を行う場面が少なくなっていることが考えられます。上記を改善するために、以下の取組を継続させていきたいと思います。

- ① 内容把握、説明文の構造を捉える、筆者の考えを理解するなど、これまで通りの取組を継続させる。
- ② 教科横断的な取組として、必要な情報を適切に処理し、ICTを活用しながら要約し、自分なりの表現方法を駆使して相手に伝わるような文章を書く場面を多く取り入れる。

今後も、授業の中で読んだテキストや文章を分析し、主題や要点、論証のプロセスを自分で考え、まとめていく取組を多く取り入れていきたいです。さらに、文章の構造や表現方法を生徒自ら着目させながら、論理的なつながりを理解させ、多くの情報の中から必要な情報をICTを活用して表現させる取り組みを行うことで、自らの考えを正確に、言葉豊かに表現していく生徒を育成していきます。